

2010年度業績ハイライト

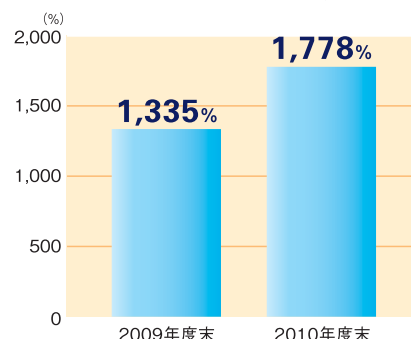
● ソルベンシー・マージン比率

1,778%

ソルベンシー・マージン比率は、前年度末の1,335%から443ポイント増加し、1,778%となりました。これは、資産運用リスクの減少を主な要因として、ソルベンシーリスクが大幅に減少したためです。

※ソルベンシー・マージン比率とは、通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかどうかを判断するための行政監督上の指標の一つです。

ソルベンシー・マージン比率の推移



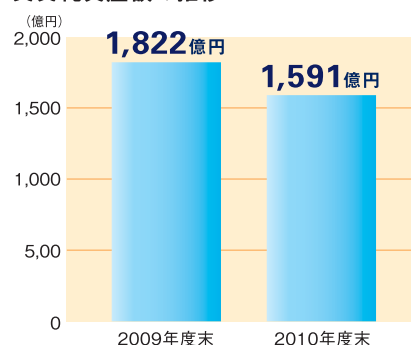
● 実質純資産額

1,591億円

実質純資産額は、その他有価証券の評価差額が減少したことなどを主因に前年度末の1,822億円から231億円減少し、1,591億円となりました。引き続き十分な内部留保を確保しており、強固な財務基盤を有しています。

※実質純資産額とは、有価証券や有形固定資産の含み損益などを反映した時価ベースの資産の合計から、価格変動準備金や危険準備金などの資本性の高い負債を除いた負債の合計を差し引いて算出するもので、行政監督上の指標の一つです。

実質純資産額の推移

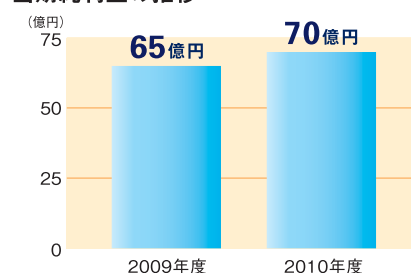


● 純利益

70億円

保険本業での収益力を示す基礎利益は231億円となりました。また、当期の損益は、経常利益21億円、当期純利益70億円を計上しました。なお、基礎利益上の運用収支等の利回りは平均予定利率を上回っていることから、逆ざやは発生していません。

当期純利益の推移

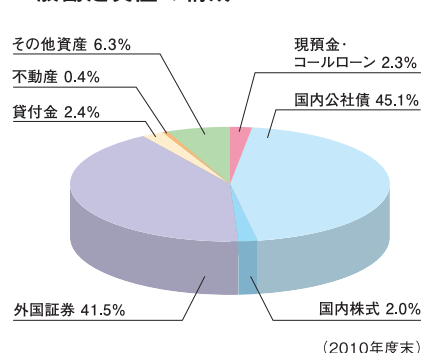


● 資産ポートフォリオ

安全性・流動性に配慮した運用を行っています

2010年度は安全性および流動性確保の観点から、不動産投信等の残高を圧縮する一方、国内債券への比重を高めました。外国有価証券については、為替相場の急激な変動に備えるため、残高の圧縮に加えて、一部為替予約を用いた為替ヘッジを行いました。なお、外貨建個人年金保険に対応した外貨負債に対しては、その負債の通貨・期間に応じた外国債券への投資を行い、資産負債のマッチングを図っています。

一般勘定資産の構成



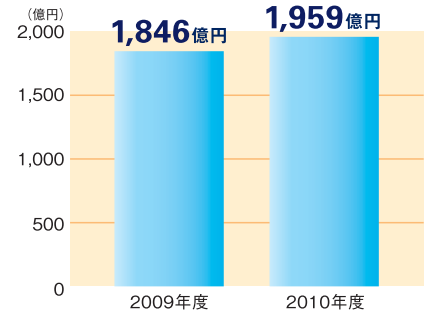
● 保険料等収入

1,959億円

外貨建一時払年金保険の販売が好調であったことなどから、保険料等収入は1,959億円、前年度比106.1%と増加しました。

また、総資産は円高による有価証券時価の減少などにより、1兆4,826億円、前年度末比95.7%となりました。

保険料等収入の推移

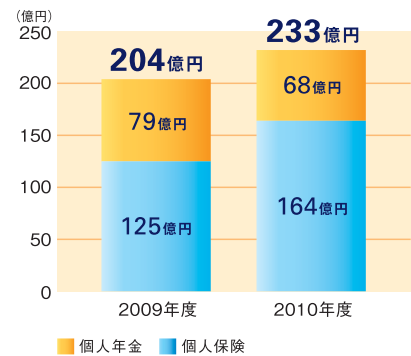


● 新契約年換算保険料

233億円

外貨建保障性商品を中心とした保険料単価が比較的高い商品の販売が好調であったことなどから、新契約年換算保険料については、個人保険は164億円、前年度比131.5%と増加しました。この結果、個人保険と個人年金保険合計は233億円、前年度比113.9%と伸展しました。

新契約年換算保険料の推移

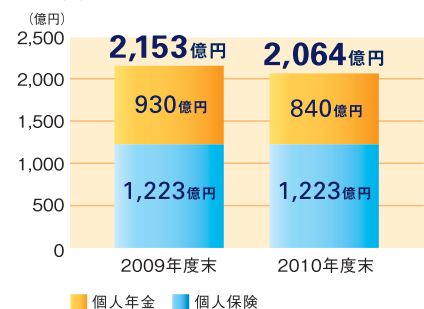


● 保有契約年換算保険料

2,064億円

今期末は前年度末に比べて為替相場が円高となったことなどから、外貨建年金保険の保険料の円換算額が減少したことを主因として、保有契約年換算保険料の個人保険と個人年金保険合計は2,064億円、前年度末比95.9%となりました。

保有契約年換算保険料の推移

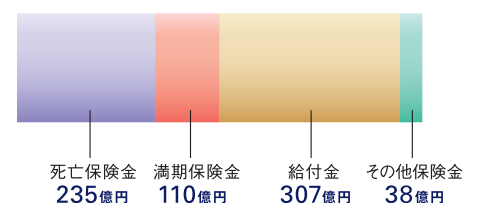


● 皆様のお役に立った保険金・給付金

691億円

2010年度の保険金のお支払い金額は384億円(件数:2万6千件)、給付金のお支払い金額は307億円(件数:17万4千件)となりました。当社はおお客様の信頼にお応えし、お客様に安心と満足をお届けするために、引き続き迅速な保険金・給付金のお支払いを心掛けていきます。

保険金・給付金等のお支払い状況



(2010年度)